

芦別高校 2 学年探究活動発表会が行われました



芦別高等学校で2月6日、2学年探究活動発表会が開かれ、1・2年生約40人が参加しました。

発表会では、高校生カフェ班は地域食品を活かした商品の開発や、提供時間短縮への工夫を発表し、地域調査班は、「捨てる前に考える」をテーマに設定し、フードロスについ

て大橋さくらんぼ園さんにインタビューを行い、困っていることなどの調査を発表しました。

小形和律校長は「探究の原点は『好き』という気持ちを大事にしてほしい」と語り、北村市長も「高校生の視点で地域の魅力を再発見してほしい」と期待を寄せました。

「世界に一つだけの物語を一冊に」市立図書館でミニ絵本作り

2月7日、芦別市立図書館で、国学院大学北海道短期大学部幼児児童教育学科教授の今野道裕さんを講師に迎えた「手作り絵本の魅力とかんたんミニ絵本づくり」が行われました。

当日、会場には使い慣れたクレヨンや色鉛筆を持参した25人の参加者が集まり、今野教授指導のもとオリ

ジナルの物語を構成。その後A4サイズの紙の片面に8等分の絵を描き、順番通りに折りたたんでA7サイズのミニ絵本に仕上げました。

市内から家族で来場した参加者は「物語の結末を考えるのは難しかったが、子どもが満足する絵本ができて良かった」と話していました。



市内外の小中学生、総合体育館で剣道大会に出場



2月14日、総合体育館サブアリーナで「第13回芦別ライオンズクラブ杯青少年剣道大会」が開催され、市内からの4人を含め、周辺市町合わせて38人の選手が出場しました。

芦別剣道連盟会長の源智和さんは、「この時期、冬季オリンピックで日本選手も活躍している。皆さん

も、これまでの練習の成果を十分に出してほしい」とあいさつ。

気温が3℃まで上昇したこの日、子どもたちの熱気に包まれた体育館には、竹刀が防具にぶつかる激しい音と、威勢のよい発声が響き渡り熱戦が繰り広げられました。

ふわふわ雪の森で笑顔いっぱい 冬そとあそぼ開催

2月15日、旭ヶ丘公園で「冬そとあそぼ ふわふわ雪の森の滑り台でしりすべり」が行われ、親子ら5人が参加しました。

参加者はビニール袋を使って森の斜面を登り、曲がりくねった特設コースで尻滑りを体験。滑るたびにスピードやコースの変化を楽しみ、

笑い声が広がりました。また、雪だるま作りや森に寝転んで空を見上げる活動も行われ、自然の魅力を体感。

主催のそとあそぼ事務局・石川美雪さんは、「遊びながら自然の面白さを持ち帰ってほしい」と話し、ふるさとの思い出づくりにつながる時間となりました。

